WASON

明治十八年初刊

女學雜誌

毎週土曜日發兌

第三百七十四號

要目

花の影を念じて
孤居窓外一株梅
井上毅氏子守教育
本年女學界三新動力
支那の美術
花よ花よ
一將功成万骨枯
關西女子教育會

明治二十七年四月七日發兌

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

第三百七十四號目録

社説

花の影を含じて

一將功成万骨枯

人の心の水の花

[illegible]君ほの情け

[illegible]ドラマンド

[illegible]安置の丸

花よ花よ

女學

開明女子教育討議會の[illegible]

[illegible]

論説

小兒の研究（承前）　佐治一郎

[illegible]

史傳

ペスタロヂと女性（其四、完結）　岡村

家政

家の周圍[illegible]の時節（承前）

文しらべ

雜錄

白河樂翁公婦女訓（下）

新書販賣妙法（舶牡園書館の事）

女ノ特る事

人は何如なるものぞ

文藝

同訓異義（六）

寄書

孤居窓外一株の梅（奈良麵倉主人）

片々

孤女學院内の傳染病○東愛社の移轉○井上毅氏の子年教育○支那の[illegible]○本年女學界三の活動力

海外女報

女子[illegible]○[illegible]○男ヘルト[illegible]女子[illegible]

女[illegible]横濱の[illegible]飲食店

時報

女子教育家の[illegible]女學校の[illegible]

女子[illegible]●[illegible]

通信

會津通信（若松高等小學○若松女學校○婦人運動）

○叙任及辞令

女學雜誌

第三百七十四號

明治二十七年四月七日發兌

社說

花の影を念じて

春と秋と、何れか物思ひに沈むことの澤なる。樹の葉、散じ、一木やせて骨立する秋の夕ぐれをのみさびしとして、花の霞を未だ散らざるに惜み、月のおぼろを梢にかけて獨り悄然たる春の宵に恨多からざる輩は、暫らく言ふことなかれ。櫻の色を顔はせに映して、枝をかざして蹌踉たる人、花の宴に歡樂を極めて、覺束なき樂天家を自任する族は、方今の同志にあらず。請ふひとり花の影を念じて、少しく春のおもひを述んか、

○一將功成万骨枯

顧りみて去過の我を想へ、實に非なりき眞とに迂なりきと悟覺せざるもの、幾人かある。たとひ、誠意をつくし、心を正ふして滿腔の赤情を傾むけたるの事と雖ども、智淺く識足らずして其道に適合せざりしもの多からずとせず。よし公明正大の天地に對して恥ることあらずとするも、人を益し世を利せんとせし素懷に對しては、豈に一片忸怩の情なきことを得んや。彼の事件は、當に云々すべき筈なりき。彼の人に對しては、當に云々に勸むべき筈なりき。悲しひ哉、當時人情を知辨せず、世事に經歷せしこと淺くして、意外の不幸を惹き起したるぞ遺憾なれ。凡そ斯の如く思念し來りて背に汗せざるものは鮮からじ。之れ、進歩的の人士にありては、常に免る可らざることなりとす。更に悲しきは、教育上の經驗十分ならずして、存外の結果を畜生の上に與へたりしことを悔ゆるの時にありとす。赤誠は、之れあり、精神は之れあり、但だ人事世情を辨まふること足らず、ライフを覺得せし經驗少くして、遂に面白からぬ智識を與へたる耳にて了りしは、返す〲も悲慘

の事なりとす。念じて茲に至り、慚愧して天に謝し、大ひに誓つて其願ひを成さんとを決せざる教育者あらば、淺ましきことと云ふべし。左れば、一將の功成るは、万骨の枯れたるが爲めなり。草腐れて土となり則はち幹枝を生じ此の麗はしき花を發らく。失敗は、經驗となり、經驗は、成功を生む。埋もれて而して異日の功業を立てしむる潜勢力は、貴むべき哉。感謝すべき哉。

○人の心の花

春は、人の心の花を開かしむ。此の花にうかれて遊び狂ふものあり。此の花の衰落をおもひて痛たむものあり。此の花に天堂の榮えをうつして樂しむものあり。人のさま〴〵なるは草木の色々なるが如し。心の花の姿、また異なり、榮枯長夭また異なる。

○源頭の水

天子より庶人に至るまで身を修むるを以て本と爲す。嗚呼、是れ何等高貴の福音なる哉。我、我心中の邪念を拂ふと能はずば、如何にして能く世上の邪惡を拂はん。我、我心中の劣情を押ゆると能はずば、何如にして能く餘人の卑劣を押えん。自から死を決す、故に能く人をして水火の中に投ぜしむ。自から一身を與ふ、故に能く人をして全身を獻ぜしむ。先づ此の根本につきて其基ひを養ふにあらずんば、枝葉花果の末につきて求むとも將た何の功あらんや。一日、一日を送迎して、駑馬の汗を滴たらせ、此時、彼時を迎送して、馬牛の走りを爲すとも、もし其の初源に反つて教始を清むるとなくんば、末流長久の濁り、何れの時か澄まん。

○宋襄の仁、老婆の情け

主義を守ると難きにあらず、主義を適用すると難し。義理を覺るは尚ほ易し、義理を活用するは容易すからず。宗教上の生命に感覺し、立命安心の本領に立ち、拈華微笑して奥妙の大悟を自得したるものと雖ども、之を言動に調のえ、之を文章に彩どり、之を陣牙居中に表はし、以て能く其精髓を他人の本領に徹到せしむるの術に拙たりと云ふとなし。未だ其精髓を覺らしむるとあらずして、先づ其形文辭言に拘泥せしむ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

るときは、既に靈覺神智の開發を害なひたるなり。斯の如くして幾度か、人の眞の發達を傷つけたる。思ふて此に至るもの、誰か悔悟の慨なからんや。思ひを潜めて、敎育の淵源を考がえ、つゝしみて天知發育の大道を惟んみれば、多言、默々に若かず。指導、冷遇に如かず。宋襄の仁、老婆の情けは、堂々たる學者先生が多恨多情の敎育の裏にありけり。

○傳道敎育學のドラモンド

微言を寄す、基督敎界の先達諸君。何んぞ敎育學理に慮ばかるの甚深ならざるや。曩にドラモンドは、靈界の學理を論じたり。今や、傳道界に敎育學理を對照するものなくんばある可らず。彼の高尚奧妙の神學說を、傳道界の初年生たる最初の研究者にも明々示し、强ひて之を信ぜしめんとす。靈界にも亦た步段あり。穗より莖、莖より實に及ぼさずんば、何如にして天堂の種子を享けんや。

○默の辯

ワシントン曰く、最上の能辯は緘默にありと。緘默の能く辯ずるとを覺るべし。無聲の言あり、無言の辯あり。辯や能く沈々として能く辯ず。花の爛熳として、白雲の如く、遠霞の如くなる、甞て一言を發せず、而も能く無言にして辯ずる所ろあり。秋葉の落ちて地に布く、雪の曉に徹して白丈を積む甞て一聲を發せず、而も能く無聲にして辯ずる所ろあり。われ今ま花の影に休らひて、其香りを聞くのみ、未だ甞て其音を聞かず、而して尙ほ其辯ずる所ろを聽くの感あらずや。もし其聲なきとよりして言はば、花の爛熳たる、木の葉の落る、雪の積もる、皆な同じ。春の洋々たる、秋の寂々たる、皆な同じ。而して其辯ずる所の意趣の皆相ひ同じからざるを見れば、彼等は皆な無言にして而も各自の精思を發顯するものにあらずや。緘默は、皆ひとし、而して其の人を感動せしむるの狀や、皆相違ふ。默に大なる辯あることを覺るべき也。鳴呼、彼の喨々喃々の徒輩、多く言ひて而も一思を徹底せしむると能はず。彼等口ありと雖ども啞に異ならず、何んぞ、官能を備ふるの不具者多きや。大地山河微かに影あり、九天鳳聲、寂として聲なし。無聲、微影に、精髓を察せんものこそ床しけれ。

○盃上轉々安置の丸

宗教の極致は、大ひに靈化して而して后ち大ひに俗化するにあり。大仁、慈悲の極致は、大ひに方正にして而して後ち機變百出 政略千態なるにあり。熱情と、超然の仙骨と、周匝と、專攻と、皆な宜しきを得て、圓滿の德に合す、之を大人の量と云ふ。われ、盃上に丸を轉ばせて、獨り自得す。丸や圓滿なり、盃や平延なり。轉々して歩むところ、大道なり。渠、一點に於て、平延の上に立ち、此一點、全體の熱力を集む。而も圓滿具足の本體は、超然として、自から地上悠々の裏に存するにあらずや。春宵多恨の花には、涙を濺ぎ、長江白水の流には、思ひを消む。戰ひに處しては、劍戟を揮り、太平に處しては、良民となる。もし夫れ事なくんば、田圃に耕やして、村のハムプデンとなり、庄園のミルトンたらん。中江藤樹は、何人ぞ、田舍教師にあらずや。ペスタロヂは、何人ぞ、田舍の私立小學校長にあらずや。加賀の千代尼は、水婢として歌を詠み、お竹は、洗ひ流しの飯米をすくひて、佛性を示しぬ。事業、人を役せず、人、事業をつくる。先人

の地歩に立たずんば成すと能わずと言ふものは、何如なる地歩に立つとも能く成すとなし。人は、其の自から立てる地歩を聖にし、茲に滿分の道を行ふべし。神云く、履を脱せよ、其地、聖なれば也と。吾等が、正しき事狀に命ぜられて立てるの地位は、即はち天職の地位なり。事狀は、即はち神の聲なり、天地の叙任したる聖なる官職なり。

○花よ花よ

花よ、花よ。汝が顯わす所ろ、そも幾千ぞ。蜂蝶、之に狂ひ、歌仙、之に醉ふ。幾人か、之によりて得意し、又、幾人か之によりて失意したる。月、汝の裝ひに伴なひては、其美を示し、雨、汝の衣をうるほしては、恨を長くす。佳人が落花の歎きは、亡國者が憂ひに均しからず。乙女が、之を挿すのは、哲學者が之を味ふの域に異なる。われ、花の面てを觀じ、又、花の影を念じ、天地の春を想ふや切なり。花よ、花よ、われは汝が福音に傾聽す。或人、よろこびて曰く、若し能く大悟徹底すれば、一心、高天、相接はつて、悠々洋々の自得あらんとすらん、未だ之を得たりとせざれ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ど、未だ之を得べからずとせず、頭べをあげて、前景をながむれば、冬天ゆたかに解けて、東の風徐ろに吹く。近ごろ玄旨に遇へるを慶こび、其幽宗を楽めて、愛戀巳むとなく、遙かに妙なる花の影をのぞみて、ほゝえみて記す。

蒼波万古流不レ極、白鳥雙飛意自閑、
万馬不レ嘶聽二號令一、諸蕃無事樂二耕耘一。

女學

關西女子教育會討議

昨日より今日にかけて、大坂梅花女學校内に開かれべき關西女子教育會に對し、左の如き意見書を送らばやと思ふて示されしものあり。試みに掲げて大方の評を待つ。討議題、幷に開會順序などは、前號女學雜誌参看せよ。

○女子の長不長の點は何ぞや其不長矯正策

男女が天稟の長所を異にするは言ふまでもなし。人皆な各々天稟の長所を異にす、男女は其の異にするの度合ひを一層大きくする耳。扨て、天稟の長短は、特得の賦性なれば、鴨のあしの短かきが如く、鶴の脛の長きが如し。歎ずべからず。然るに、女子が天稟の長不長は、實際、何如なる事ぞと問わんに、此は今日に方りて强ち一律の下に斷定すべきものにあらず。從來の壓制束縛は、女性の開發を妨たげ、其天眞の露展するとを止めたれば、何如なるが是れ其の長所にして、何如なるが是れ眞の「女らしき」やを斷定せんと頗ぶる難し。昔し森文部は、一時大激劑を教育界に下して其變相を視、而して后ち徐むろに救助利導の策を施こさんとせられし由なるが、今の女子教育は、之と理を同ふして趣きを異にす。即はち暫らく放任自由にして女性の天稟を自から發露せしめ、而して后ち之を律するにあり。盆栽のうねりくねりたる松を庭前自由の空氣内に移し暫らく其の勝手に伸長するに任せて、其后ち之を剪伐調整すべきが如し。故に、女性としての長不長を今日に於て斷定せんとは望ましからず、況んや其不長を矯正せんとするとをや。元來、人の長不長を先定的に獨斷するは、不體なるが、

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

一の人性としての女性軀躰を一括に一律し、汝が長所は是なるぞと定め遣わすなど、無禮至極の事にはあらずや。

○基督教主義の女學校と他の女學校との優劣

基督教主義の女學校は「人」として女子を教ゆ。他の女學校は、方今の女藝の必要よりして之を教ゆ。前者は、濶大なるを以て迂遠實用少なきに陷いるの憾みあり。後者は實際なるを以て淺薄狹陋に流るゝの弊なきにあらず。優劣互ひにあり、相合して初めて完きを得んか。

○學校的女子教育の失敗は何ぞ

學校的女子教育の失敗は、多くは、學校なるものに掛て望むまじき過分の事を望み、之にのみ委賴して他の方便に賴托せざりしより生來せり。第二には、寄宿舍の管理力の不十分なるより生來せり。寄宿舍より來りし失敗を救ふには別舍の組織を要す。學校としての失敗と見做すべき點を救ふには、交際應接禮容などの科を一層多くするにあり。

○宣教師女學校は今日の儘にて宜しき乎

先づ女學校の目的を定むると肝要なり。普通教育か、宗教々育か、宗派教育か。此の目的を確定し、之に隨がつて方法を組織し、因果活通の途に出でずんば、百千の論議は到底無益なり。若し、普通教育なりとすれば、女生の風儀心得などは、日本人の取締に托し外國人が教化の中心とならざると緊要なり。余は一策を献ず、即はち宣教師女學校内を二部に分ち、一部を普通教育として管理を日本人に任かせ、他の部を宗教又は宗派の教育として外國人自から管理すべし。但し普通教育の部に於ても、宗教に關する點は暫らく外國人と相議り其力を用ひしむべし、是れ學校成立の關係よりして免る可らざる事なり。

○女學校を目的に從て二種に別つと

學問を以て立んするものを高等科にて教導し、家庭整理の爲めの普通教育を普通科となすと、當然の區分法なり。

○普通科は高等小學卒業後何年にて足る乎

今日に在りては、三年にて足れり。但し地方に於ては、二年とし、別に其地方に於て尤とも必要なる女藝を更に一年教授すべき必要もあらん。都會に於ても、三年以上に渉らんと、今日に於いては不當なり。

○基督教主義女學校普通科課表編成の件

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

苟くも普通教育を旨とせば、基督教主義なりとて殊更ら學課表編成に特別の箇條あるまじ。要は普通教育の學理に據るのみ。たゞ德育及び管理の精神を基督教主義とし、教師が言行の導化を基督教主義となすの外、別に異事あらん筈なし。

○學問と技藝を教授する權衡如何

此は一概に斷定すべからず。先づ第一に學校の地方、及び學年の長短などに關すべければ也。但しかゝる問題につきて尤とも注意すべきとは、學問なるものに技藝主義あり、技藝なるものに、學問主義即はち其技藝の爲め精神教育なるものあると是れ也。學問も、役に立たざる可らず、即はち之を實際に用ひ得るほどに、又、之を眞理一層の研究に用ひ得るほどに役に立たざる可らず。技藝も、之を用ひて人の智德を開發し得るほどに、又、其技藝の精神を吹込み得るほどに、學問的ならざる可らず。

○定期試驗を廢するの可否

學校の監理、規律、教授など、能く以て生徒の勉學心を鼓舞するに足らば、定期試驗は無くとも可なり。故に、定期試驗を廢するには、順序あるべし。又、卒業證書の外に、修業證書を授與するなどの一方なくば、到底如何なる法方にかよれる試驗はなきとを得じ。

○聖書教授の方法

普通教育の學科內に、聖書教授を置くの必要なし。もし事情ありて、之を置かば、德育の一部として校長之を講じ、可成く、宗教の生命に着目すべし。歷史的、學問的、神學的に流るるの弊を防がざる可らず。

○聖書讀書教授の順序

順序とは、時間割の意義か、左らば早朝第一時に聖書を說くべし。

○神學者に用ゐしむる聖書の良書及教授法

矢張り四書五經、諸子、王陽明、朱子などの類なるべし。漢學教授法は別に說あれど、神學者に用ゐしむる漢書の教授法と云はゞ、先以て儒者風の人に教授を賴むこそ善けれ。

○英文學讀書力修養の法如何ん

英文學の讀書力は、所云る正則風にて修養するを良とす。尤とも望ましきは、文學の趣味深き、力ある日本西洋二人の良教師をして教授せしめたし。

論説

小兒の研究（承前）

佐倉一郎

小兒の健康、保養、訓育、發達、生長等を研究するの價値は、他の研究の企て有し得る處に非ず。然るに何等の事物にも劣りて、知るもの少く、注意するとの謂きものは小兒に關する事なるは、誰ありて其實を疑ふとを得ず。若し之を疑はんとせば乞ふ植木師が花園にゆきて、彼が花卉草木に注意すると幾許なるかを觀、而して去りて某の學校の教場に入りて、其空氣、溫暖等を計れ、乃ち雲壤懸隔するものあるを見ん。然りと雖も父母教師等が小兒を見ると花卉草木を見るよりも薄しと敢言するを得ず。蓋し小兒に關する智識なきが爲に之を見ると厚からんと欲しつゝ、却て薄きを致すと雖も、之を怕らざるなり。かるが故に父母、教師、醫師、牧師、商人をして、小兒を遇するの途を知らしめんが爲には、小兒學なるものゝ存在するを必要とし、學校に於て靑年男女をして、小兒を研究せしむるを最良の方法なりとす。夫れ父母を養成するは學校の國家に對して負へる一大責任なり。然るに世人其子女を學校に送りて、文學技藝を學ぶと共に、父たり母たるの道を學ばしめんとすと雖も、世間何處にか果して之を教ふるの學校ありや。世人の處女に向ひて要求する處は、賢母たらんとに在り。然るに女子を教育する學校にして、小兒の研究をなさしむるもののあるを聞かず。木に縁りて魚を求め、山に入りて潮を求むるとは如此をやいふなるべし。是れ空に實を求むるに異ならず、實に嘆ずべきかな。此欠點を補ひ、彼希望を充たさんが爲に、茲にペイドロヂー即ち小兒學なるものゝ起る必要なるを見るなり。

○小兒學の稗益する處

小兒學なる一新科學を設立せんとするには、是迄小兒に就きてなし來りたる種々の研究を中止するとを要せずして、却て之によりて獲たる幾多の智識を綜合して、一系統の下に集合せしむべきなり。然りと雖も此科學を展開するの業たる決して、容易の業に非ずして、斯學の爲に全身全力を捧げて、從

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

事する多數の學士、學者輩出して、而して後に眞正なる小兒學あるを得ん。若し此小兒學なるもの、眞に科學的研究の下に持ち來たさるゝに至らば、小兒の保育、訓育、待遇等の現今の有樣に一大改革を起さしむるに至るべし。試みに彼の教會の日曜學校を見よ。其行ふ處、務むる處は、殆んど是れ、兒戲に非ずんば、痴愚の業なり。何が故に然るか。乃ち之が教師たり、監督者たるものゝ、小兒の宗教心の果して怎生なるものなるかを了知せざるが故にして、隨つて小兒の强固ならざる頭腦に無用、無價の事物を注入し、打ち込まんと孜々勉勵しつゝ、小兒をして、眞の神を知らしめんとする日曜學校の事業は正に如斯しとせり。吁愍むべきかな、如斯き教育法は決して、小兒に益を與ふるとなくして、却て大害を釀し、其發達を中傷せんとす。然るにもし、小兒の宗教心の眞相、明瞭々として知悉するを得るの曉には、俄然日曜學校の教育法に一變動を齎して、眞正に小兒を導きて、神の心に到らしめ、教會の爲に鞏固不拔なる基礎の置かるゝに至らん。されば乞ふ、世の小兒の父母たるものをして、其小兒に關する智識の極めて些少なるとを自覺せしめよ。父母にして顧つ

て、其第一兒が其家庭に呱々の聲を揚げたりし時代を回想せんには、竦然として、實に小兒學なるものゝ、年うら若き父母に必然缺くべからざるの價値あるものなるとを覺悟すべく、又誠によく其生兒を保育、乳養せんとする者は、小兒學の世に來らんとを渴望して歇まざるべし。又醫師にして、小兒學あるを得ば、爲に利する處蓋し測るべからざるものあらん。今日の醫師の如きは、小兒に關して毫も預り知る處なしといふとも、殆んど不可なきが如し。小兒學の裨益する處たるや極めて大なり。然れども尤も其利を受くるものは、學校の教室に在り。教室は是れ小兒を以て事を行ふ工場たり、商店たり、事務處たり。故に小兒學は其事務の進行を指導する羅針盤となりて、教育の海に恙なき航海をなして、大勝利を得せしめん。現今吾人教師たるもの、其責任は小兒を保育誘掖するものなるに、なほ小兒の眞質に就きて、全く無智無識なるは實に恥醜に堪へざるの事ならずや。如斯は人をして知らしむべきに非らざれども、これ事の實際なるを怎生にせん。教育學なるものは、凡百の學術、技藝、事業の根底たるべきを至當とするものなるに、實際、今日は之に反して、此等の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ものゝ脚下に、些なる地歩を有して刺促するの狀態なり。然れども若し一度小兒學の起りて、小兒の眞相發揮せられんか、之によりて敎育學に乍ち亢龍雲霧に乘ずるの勢を以て、其眞面目を保ちて、凡ての事業、學問の根底たるに至るべし。小兒學の結果は、又之を法律に應用することを得べし。蓋し小兒の眞質よく了知せられなば、法律は其宜しきを得て、乞食、罪人の狀態に陷ることより小兒を拯ふことを得ん。且又斯學の効果を社會に行はゞ、惡小兒を感化、矯正するの事業、其他小兒に預れる一切の事業の上に良好なる應用をなすことを得べし。概言せば實に小兒學は、小兒を以て骨子とせる凡ての事業、凡ての職分、凡ての改革、凡ての學術の内に侵入して、良果を結ばしむることや、必せり。

○小兒學の材料

小兒學なるものを構成せんには、必然其材料の多量を、今日迄種々なる學科上より小兒につきて研究して得たる結果成績に仰がざるべからず。かの人類學及俗傳野乘の類は、小兒に關する遊戯、唱歌、調韻、秘事、諺語、奇蹟怪説等の如き、

甚だ輕々に看過すべからざる材を供給すべく、又人類尺度學（小兒學に於ては、小兒尺度學なる文字を用ゐんとす。）は重量、生育、打量等を敎ふべし。病理學に至りては、尤も大なる益を與ふべし。何となれば小兒學の一大篇章たるべきものは、小兒の疾病に關することなればなり。其他生理學、神經學、心理學、敎育學等の少からざる材料を與ふべし。然りと雖も、斯學の爲に最大最純の材料を製造するものは、小兒自身にありとす。俗眼を以て見れば、心理學は斯學に甚だ大なる益をなすべきに似たれども、其實心理學なるものは、左迄に小兒學上に裨益を與ふるものに非ず。其理如何、思へ、今日の心理學なるものは成人を研究するものなるが故に、斯學の研究の結果を以て、小兒學上に加へんとするは、嬰兒の肩上に、老成人の頭腦を載せんとするものに非ずや。

○小兒學の難

小兒を研究するは、蓋し凡百の學問及技術中に於て、尤も困難なるものといふべし。それは動物的生命を有するものは、其階級の高等なるに隨つて、其性いよ〳〵複雜となり、隨つて

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

之を了知することの難きと共に、又斯小兒學は一個の新學問なるを以て、其研究の道程に當りて、其針路を指示する導標なし。否導標なきのみならず、一線の道路も斯學の前に横たはるものあらず。且や小兒の行爲は、寔に誤解し易きものなることの障害あり。世には了解理會するに困難なるもの多しと雖も、小兒を了解せんとするは實に其困難を極むるものなり。しかのみならず、吾人人類の傾向（この傾向を英語にアンスロポモルフイック、テンデンシーといふ。）よりして、彼ブレイヤー博士のいへる如く、吾人は實際小兒に屬するものよりも大なるものを取りて以て、小兒の性質なりと稱して、大に小兒の眞相を誤ること多し。予はこの困難なる小兒學の研究に志して、道標なき處、進路を照す光明なき地に立ちつゝ、自家の小兒より學び、又去歳春時、試驗室に於て幾多の小兒を試驗したると、又多くの載籍によりて得たるものとよりして、曙光我頭上に顯れて、斯學に於ける予が進路を指導するに至れり。

○十年後の小兒學

予や小兒學の研究に志してより、獲る處未だ甚だ些少なりと雖も、今日迄攻究したる處によりて考ふれば、今より十年の後には我米國の主眼の大學に於て、小兒てふものは、他の幾多の學科と等しく純粹なる研究の一題目となり、又其應用學をも研究するに至らんと期して待つことを得べし。假令之を稱して予の如くペイドロヂーの學科といふとも、いはざるとも、小兒の研究なるものは、大に其根據を學校科業の中に据うるに至らん。乞ふ更に進んで予をして預言せしめよ、今日予が此論文を讀む人士の中には、幾多の學科を分類殊別したる我國大學が、二十世紀の初めに至る迄、凡百の學術を綜合するとも、なほ共に其價を競ふに足らざる此小兒學を創設するに猶豫したるかを怪訝するの日に遭遇するもの必ずや存せん。彼等は必ずや、小兒學なるもの、小兒の眞相を示して、過去五千年の間に、世界が小兒に關して學びたるものよりも、猶更に大なるものを之に敎ふるの日あるを見るに至らん乎。

美人捲珠簾、　深坐嚬蛾眉、
但見涙痕溼、　不知心恨誰。

史傳

ペスタロヂと女性

隠村

其四（完結）

予は既に三回を重ねて、偉人ペスタロヂが賢母、良妻、忠婢三女傑の事蹟を記述したるが、今爰には傳者がヒロイック、ウーマンの名を與へたる女丈夫エリサベスの事を記すべきことゝなれり。

エリサベスは其姓をナエフといひ瑞西國カツペルの人なり。其祖先は宗教上戰爭に於て武功拔群なりし者として、ツユーリツヒ市公民權を獲たる人なりき。このエリザベスが偶然にしてペスタロヂと關係を有するにいたりしかく其顛末や實に偶然に非ず、又彼女の如き女丈夫に非ずんばなす能はざる處なり。

ペスタロヂ幼にして社會改良の志を抱きて、其惨憺する事を見るに忍びず、と能はず。或は爲に村落の牧師たらんとし、或は轉じて法律家たらんとせしか、一切貧民の状態を改良せんは、農業を進歩せしむるに如かじと思ひつゝ、志を三轉して、愛妻アンナと手を携へて、ノイホッフの新莊にいたり、手づから耒耜を執りて茜の栽培に從事することゝなりぬ。然れども是れいまだペスタロヂが眞正の天職に非ざりしなり。天は彼を斯土に教育家として生を享けしめたり。故に天職に非ざる農業はペスタロヂの爲に利あらず。自ら經驗に乏しきと、惡人なる番頭のためとにて、僅々五六年にて家産殆ど破るゝに至りぬ。家政破れたるが爲にペスタロヂは眞の天職を發見し、天下は其恩澤に浴することゝなりぬ。

ペスタロヂ破産に際して、毅然起ちて貧兒教育院を建設して、一個の貧民學校を開きたり。この一小學校こそこれ十九世紀の教育を改革したる曉天の微光なれ。彼は身を捧げて此院の爲に務め其効績見るべきものありしも、天運未だ彼に許さず、天の偉人を成さんとするや、屢々之を苦しむとかや。此慈善の事業は五年を經て、計全く地に墜し、教育院は閉ざゝれ、自家は貧困を極むるに至り、曾て救拯せんとして、心を砕きたる貧民の状態は、自家の境界となり、納屋

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

に薪炭なく、厨に食物なく、財嚢に一錢を剩すなし。しかのみならず、愛妻は健康を缺ぎ、一子は病身にして羸弱なり。

ペスタロヂの當時實に察するに餘りあり。彼は焦心苦慮の餘、或時の如きは痙攣を起し、地に倒れて、友人の扶起する處となり、人をして、彼は其死床を病院か或は癲狂院に設くるならんと危殆の念を抱かしめたることさへありき。

かく貧困疾苦に襲撃されたるペスタロヂの家を救濟し、其狀態を挽回せんとして、自ら好んで爰に入りて共に困難を舐めつ、遂に一家の經濟滯るなきにいたらしめたるものは、これ女丈夫エリザベスなり。彼女はペスタロヂ家と姻戚の緣あるに非ず。唯ペスタロヂの親戚に一時奉公の務を執りたりし時、偉人の行爲に感奮することたゞならず。會々其主人の死去するに際し、ペスタロヂ家の狀態を聞きて、馳せてノイホッフに赴きて、ペスタロヂを訪ひ、其家に奉事せんことを懇望したり。

ペスタロヂは他人なるエリザベスの懇望を諾はず。容易に幸福なる家に赴きて奉公することを得べき彼女をして、其家の貧苦を共にせしむることを許さず。且や彼と彼女と宗教上に於て少しく見る處を異にせるが故に、相和合せざらんことを慮りて彼女を拒みたりしも、一度意を決したるエリザベスの志は堅くして遂に拔くべからず。ペスタロヂもやむを得ずして其懇望を許しぬ。

義人を助けんが爲にエリザベスは、万人の辟易して近かざる貧窮者の家に、懇望切願の餘に奉事し、俸給を給するに非ざれば食事さへ容易く與ふること難き人を主人となして、至貧至苦の境界を怖れず、之を制服せんが爲に、日夜勞働を歇めず、地を耕し、野菜を植ゑ、家事を整頓し、遂にはペスタロヂー一家の財政を回復なしたり。嗚呼驚くべき女丈夫に非ずや、得がたき女傑なるかな。ペスタロヂの著『レオナルド及ゲルツルード』てふ敎育小說中にゲルツルードといへる勇剛、大膽、活潑、柔和、怜悧なる獻身的女丈夫あり。このゲルツルードこそはペスタロヂが彼エリサベスを描寫したるものなると、彼れ自らも明言せり。又彼は其『レオナルド及ゲルツルード』の第四卷を以て、エリザヘスの名に捧呈したり。

ペスタロヂに一子あり名をヤコブリといひき。生れて羸弱なりしが、エリザベスの之を見るや、己の子を見るが如く、看

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

護意るとなかりき。エリザベスはペスタロチ家に使役の勞を執ると二十餘年にして、後ペスタロチの助手クルシの弟に嫁したり。然れどもペスタロチとの關係に疎遠を來すと毫もなく、彼がイベルダンに學校を起すや、彼女は其夫と共に彼處に赴いて其賄方を管理し、勉めて其食、營養品を生徒に供して、其健康に注意するや、恰も慈母の小兒に於ける如き觀ありきといふ。茲に勤むると十一年、其夫は死し。ペスタロチ夫人は逝き、學校は危急存亡の機に在り、後には自らシユミツドといへる專任教師と意見を異にしたるが爲、讒を呑んで多年奉事したるペスタロチと別れ、イベルダンを去りて、亡夫墳墓の地にあるガイスの貧家に自適の一子と共に餘年を不幸の裡に送りぬ。

予は以上四人の女傑を記するや、吾輩に措く能はず、傑人ペスタロチの出でしも、誠に容易に非ず、偶然に非ざりしを思ふなり。其母は賢、其姉は貞、其婢は忠、而して殊にエリザベスの如き義人あり、今日十九世紀の教育改革は成就したるなり。世の教育を受くるもの一つもペスタロチに感謝して敬むべきに非ざるを共に、以上四人の女性にもまた大に謝する處なからざるべからず。願はくは讀者よペスタロチの名を記すると共に、スザンナ、アンナ、バベリ及びエリザベスの名を記せよ。女流諸君よ卿等は婦人内助の力を唱ふるものなり、されば眞に婦人の内助とは、彼四人の女流の如き事業をいふなるとを思ひ、彼等を典型として、之れに倣ふに怠らざれ。

予は前に論題に於て、ペスタロチーとルウサウを比較したり。噫、かのルウサウや、生るると共に、母と幽明を異にし、其妻は愚鈍、周圍にはまた彼を助くる賢女流なかりしより、遂にかの不平安の一生を苦吟して過したり。もしルウサウにして、ペスタロチの如く、賢妻、賢母、或は忠婢ありたらんには、其學說たり、高尚なる教育思想を紙上の間にのみ留めずして、眞に人類の教育者となりたるならんに、天下今日の教育は更に高に進步せるならんに。可惜むべきかな。茲にいたりて予は益々女性の人を造るものたるとを覺りぬ。

白髮、花の落るを悲しみ、
青春、鳥の飛ぶを羨やむ。

家政

家の園播種の時節（承前）

草花類（完結）

金鶏草（きんけいそう）　春月種を下し夏月に至り黄色に紅褐色を交へたる單瓣の花を開く栽培至つて容易なり

やりけいとう　春月種子を撒蒔し後移植す秋月に至り梢末に岐を分ち紅色の花を開く遠眺に宜し

仙人穀（せんにんこく）　春月種子を撒播し後花壇に移植す秋月長き穂を垂れ美観なり紅白の二種あり

十様錦（じふけいとう）　春月種を下し後間引を爲すべし秋月に至り葉紋に錦繡諸色を交へ甚た美観なり

木芙蓉（もくふよう）　落葉灌木にして春月種子を下ろし夏月に至白淡紅等の花を開く切花さするに冝し

山蘿菊（さんらぎく）　一に松虫草さ云ふ一年草にして春月種を下し秋月紫花を開く頗る美麗なる者にて又種々の色澤を有する者あり

含羞草（おじぎそう）　奇妙なる一年草にして花葉共に物に觸るれば收縮下垂す四月上旬種を下し後移植すべし

鐘草（つりがねそう）　丈夫なる宿根草なり春月種を蒔き翌年秋に至り花を開く形風鈴の如し藍紫白等の各色あり

紅花菜（べにばな）　春月彼岸に種子を下し一二寸に成長の時花壇に移す夏月紅色又は黄色なる花を開く切花さなして宜し

バルトニヤ　一年草にして移植を忌むゆへ初より植ゆべき所に下種すべし大なる黄金色の花を開く甚美観なり

ビランジ　宿根草なり種子春月に蒔き夏月に至り五瓣淡紅又は紫色の花を開く切花さして永く眺むるに冝し

セロシヤ　鶏頭花の一種にして色澤絶美の紅穂を發す春月種子を下すべし

コスモス　秋開花する植物にして桃色或は白色等ありて満開の時秋風の爲に東西に搖々する有様は殊に愛らし

美女櫻（びじよざくら）　春月種を下し後花壇に移植すべし世に著明なる園花にして尤も美観なり秋九月種子を下し翌春に至り移植す降霜の頃まで絶へず開花すべし

麝香なでしこ（じやかうなでしこ）　春秋種を下し後移植す花は極めて美麗にして一種の香氣あり甚だ愛すべし

金蓮花（のうぜんはれん）　春秋彼岸に種を下し後移植すべし春蒔は七月より秋蒔は六月上旬より開花す花は黄、紅、絞り等の數種あり頗る鮮美なり

アメリカセンノウ　葉莖共に小にして梢頭に黄褐色五瓣の優美なる花を開く春月種子を下すべし

アライサム　葉莖共に小にして多く細枝を生し枝頭に白き微小なる簇花を開き一種の佳香あり優美にして愛らし

アクロクリニヤム　異形の草花にして殊に佳あり種子は春月下すべし

ガウラ　丈夫なる宿根草なり春彼岸に種子を下し後移植す夏秋の間開花す其様宛も蝶の飛ふが如し最も愛すべし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ベコニヤ　宿根植物なり春二三月のみ種子を下し夏期に至り鮮明なる花を開く形稍我秋海棠に似たり霜害尤も注意す可し

ジギタリス　春四月種子を下し四五葉の時花壇に移植す翌年春に至り紫斑白色の凸點ある花を開く又葉を乾燥して藥用に供す

サルビヤ　プレンデンス　高さ三四尺に至り多くの枝を生ず枝頭に穗を出し深紅色の花をひらく種子は春月下すべし

レセダ　一に木犀草と云ふ蔚き一年草にして春彼岸播をし五月頃移植す綠色の粗花を開く佳香あり歐米人は殊に好めり

フロックス　丈夫なる草花にして日當り能き沃土を好む[illegible]なり種子は春秋共下して可なり

ロベリヤ　莖葉共に小にして綠色の奇花を開く其狀[illegible]種子は春月下すべし

望江南（はぶさう）　丈夫なる一年草にして春月種子を下し後間引て一本立となすべし黄色の小花を開く毒虫にさゝれたる時其莖葉を[illegible]

除蟲菊（のみとりぎく）　春秋彼岸に種を蒔き五六葉の時花壇又は畑に移植す開花を待ち摘採り乾して[illegible]

水仙（すいせん）各種　球根にして冬月開く其根を取て藥用に供す白、黄等の花を開く

グラヂヲラス　俗に和蘭菖蒲と云ふ春月球根を下し後移植す夏月花を開き紅黄白紋の各種あり切花とするに適す

鬱金花（うこんかう）　春月種子を蒔き五月頃花を開く形蓮花に似たるを以て此名あり紅白淡紫等の各種あり

王瓜（からすうり）　三四月頃種子を下し發生して白色の花を開く後朱赤色の鷄大卵の瓜を結ぶ一名玉章草とも云ふ

文しらべ

白河樂翁公婦女訓（下）

無名子

「凡そなれ過ぐるにより自然と心安さにふし〳〵おこりて、夫婦の間讐敵の如きに至るなり、家禮にもいへる如く、婦は必我より目下の方より迎ふべしといへり、志かるに今は我よりも高貴の家の女をめとり、あまつさへ財寶をこひ、土木の直をとふ、こゝによりてその婦もかならず驕慢にして常にほこる意あり、夫は之を制せんと思ひ、婦は之にはこらんと思ひ候」

婦は必我目下より迎ふべしとは、隱然婦人を以て常に目下のものとし、之れを壓抑せんとするの意義を包含す。高貴の家の女若しくは、財寶豐かなる女を娶らんとするの風習、今日に至りて益隆なるを致せり。而して彼等の心底を探るに、己れの立身を助けんとするに外ならず、是豈に小人の業にあらずや。

「その上なれ過るに至りては妬心をおこし、大に家内治らざるに至るへし、夫の附の女婦の附の心たがひに遠き思ひなく、主人を大切と思ひてせりあふほどに、自然と上の夫婦の心も化してあしきに至るなり、慎むべし」

之れ中人以上に於てのみ、行はるゝ如きものなれども、その實、形こそ異なれ、下等社會にもまゝあることなり。下等社會にて、夫妻に附く者は、その召使ふ者にあらずして、その友若しくは、近隣の老若男女なるへし、是等の友近隣の男女が、夫につき、又は婦につきて、互の間を遠ざくることは、まゝあるためしなり。

「女はすべて文盲なるをよしとす、女の才あるは大に害をなす。決して學問などはいらぬものにて、かな本よむほどならばそれにて事たるべし、武藝は猶更さすべからず、女はたゞ内にくど〳〵して日をくらすもの故馬鹿なるが女の智なるなり」

公が婦人の本職に關する、觀念、極て奇なりといふべし。然れども彼の時代にありては、是れ普通のことにして、敢て奇とするに足らず。婦人は愚なるを以て、智なりといひ、たゞ家内にくど〳〵して、日を暮すを婦人の天職となす、公の思想はあまりに、消極的に偏せり。世は唯男子の世にてありけるなり。公も亦時の精神の影響を受け過ぎたりといふべし

「さて古へより英雄豪傑の士、女にたぶらかされ又は制せらるゝもの多し、隨の太祖の如きも獨孤后に制せられき、それをいかにと尋ぬるに、女は至柔のもの故、かへつて至剛のものを制するなり、男もつねに女をば大に侮どりていかでかれに制せられんと思ひて油斷するに、女は外に、勤めなく專一に夫の心をみすかして、氣に入る樣にとのみ思ふ故に、工拙是ほどの差になるなり、その上愛する心よりその專制のきざしも見えず、よし見えてもまた甚だかすかなり、制するにたらす、われ敵國の計にのらす、剛强の士を手につく、何んぞ愚痴の女われをたぶらかさんと思ふに依て、その心怠るにつき、つひ日々と覺へす彼が術中に陷り、深谷のそこに至りて始ておどろけども、よぢのぼるにてだてなし、易にいふ霜をふむの漸をしらぬなり、右の故に晋の獻公、隨の文帝の如きも女にたぶらかされて家國を亂しゝぞかし、慎むべし、女はいかにも柔弱にして和順なるをよしとす」

之れ東西ともにある事實なり然れども皆或る事情ありて斯

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

かる次第に至りたるなり、婦人は虚言多きものとは云へ夫をたぶらかさんことを、力むるものにあらず、寧ろ夫の心を汲み來り、之れに逆はずして、從はんとするは、東西の風習なり、婦人が夫の心を迷はす如きは、必ず他に事情の存するものなりと云はめ。されど一國の主となり若くは、大家の主たらんものは、或る事情の附着し易きものなれば此心得を要するは明けし。

「且又政事向又ハ諸願ひ等、奥より出候様に成ては其ためしく候、たいてい理なる事にても政事等にかゝる事に依て、奥向より出し事なればとりあげ申まじく候、妾の親族は家臣になす事これ禁ずべし、萬一縁よりある親族ならば、散族をあたへて政事にあづからしむべからず、婦人欲よしといへども用うべからず候事、本妻妾腹のしなさればよく立さきかならずしも亂るべからず候事。」

公は、先づ婦人は公務に與かるの、不理なるを説き、妾の親族を家臣となすべからざることを戒しめ、妾の一族より家を亂すは、昔に明治の今日の聖代に至りても、屡々聞く所の事なり、公が本妻を尊び、妾の親族など關する思想、吾人の須らく奉すべき訓戒なりと思はるゝなり。

（完結）。

雑録

新書廉買妙法　廻覧圖書館の事

文女

世には圖書館もあり、貸本屋もあり。されど圖書館は自ら足を運ばねばならぬ不便あり。貸本屋は多く古本又は小説類に止まるが如し。而して此二ツの方法も、土地に依ては必しも行はるゝことを得ず。されば自ら金を投じて讀みたしと思ふ書物を購はん乎、我等の如き貧人は懐中容易く空となるとなれば、是迄も實際には行はれ難し。しかも新版書籍の出版は春雨の後の若草の如く、日に新聞の廣告欄内に見ゆると聴けば、其内には定めし一讀せまほしとの心自然と湧きくるあり。斯る事度重なりて何か好き方法はなきやと思ひ惱みつる折柄、同感の人も世に少からぬと見へ、近頃我知れる人々十數人相集りて、毎月十錢宛を出し、其金にて新版書中然るべきものを購ひ、交る〜〜之れを一讀したる後、出金者中へ入札にて之を買受くる事となし、其落札者より支出せし金圓を次の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

月の醵金の中へ加ふる事となし、毎月斯の如くにして順次に高價の書物を購ひて讀得らるゝ方法となし居れり。依て予も亦乞ふて此組合の一員となりしかば、爾后は之れが爲些少の金にて多くの新版書を讀得ることゝなるべしと思ふ。同好の諸姉は試に其交友中にて斯る企をなし玉ひては如何に。

女の袴きる事

女の袴きる事、古は貴賤によらず着せしなり。袴は禮服なれば、女とても着ざる事はあるまじき事なれど、今は武家にては着ぬならはしになれり。これも上よりのおきてなるか。宇治拾遺卷九に、越前の國敦賀に、貧しくて獨住ける女の、觀音のたすけによりて富る身となりし物語を記したる條に、なにがなとらせんとおもへども、とらすべきものなし。おのづからいる事もやあるとて、くれなゐのすゝしの袴ぞ一ッあるを、これをとらせてんとおもひて、われは男のぬぎたるすゝしのはかまきて、此女をよびよせて、年頃はさる人あらんとだにしらざりつるに、思ひもかけぬをりしもきあひて、はぢがましかりぬべかりつる事を、かくしつることの此世ならずうれしきも、何につけてかしらせんと思へば、志ばかりにこれをとて　らすれば云々。是は田舎の貧き女が、むかし母のめしつかひける下女のむすめの思をうけたりしによりて、其よろこびに紅の袴をぬぎて、其むすめにあたへたる由をいへるなり。これにて紅の袴いやしき女までもはきたる事を知るべし(四季艸)。

人は如何なるものぞ

神戸女學校に於ける
森田久万人氏の演說

『人間とは何者なるか』彼に第一智力あり智識は活字引の如く博く知るにあらず眞に自を知り神を知ることを以て眞正とす。第二感情あり特に美妙の感は下等動物と異なるを致す。第三道義性あり人は常に正善と認むる能力を有ち天然に義務の念を有つ。之は歷史的研究もて了解し得らるゝ限りにあらず。第四宗教の念慮あり又自由性ありて罪を感じ又他の一方には人間は獨立を保ち得ず必ず人以上の無限者を求むなり。之を以て人間とは己を知り美妙を感じ責任を覺へ神を悟るものなり。悲哉未だ吾人は此境に達せず、如何にして此理想に達すべきか、そは絕對無限至仁の神と和親し全力を盡し其意に適ひ人々を愛するにあり。故に基督の性行と理想とは、吾人の宗教性を完ふし眞の人間たるの地位に導く生命なり又眞理なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文藝

同訓異字（六）

トル

取 それをとつて我が方へいれる事

乗 とりて手にもつ事

把 柄あるものをにぎりもつ事

執 しつかりとにぎりてはなさぬ事

採 つまみとる事
とりてふりまはす氣味

捉 手の内ににぎりとめる氣味
とらへつかまへる事

トヽナフ

調 かたづまりたるものをねり合せほどよくする事

整 物の行儀よくりつぱになつてゆく事

齊 大小長短なくよくそろひとゝなふ事

トク

解 そのわけをときくとく事

説 物をとき別々にはなす事
そのわけなときのぶる事

鎔 火を以わかしながす事

釋 ことわけなとく事
さけあらくる事

註 ことわけなこまくごく事

融 陽氣のとほりて雪などのとける氣味

トホル

通 道つゝきあつてよくかよふ事

達 其所まで行道あつてとほりゆく事

透 其物の中へとなり入る事

徹 底までとほりぬける事

トキ

時 四時の事、人それ／＼に事をなす時節あるを云

辰 十二辰より出てときの事に用

晨 はやくたちゆくときの事

秋 其時の最中を云

節 年に二十四節ありこれを節氣と云

トモ

朋 道を同して學ぶ人を云

友 志を同して付合ふ人を云

侶 それと同行になるを云

倶 ともにとよむ
ものを同じやうにする事

共 事を衆とゝもにする事

輩 それ／＼の朋輩中間の事
ともからと訓す

伴 ともの ふとよむそれとひつそふてつれになる事

偕 ものを相ともにしく氣味
同道する氣味

與 それを相くみてする事

徒 それと組合て事をともにするものを云

寄書

孤居窓外一株の梅

奈義道舍主人

（一）

照る月背に
ふと外の方を
そよ吹く風は
たゞ一ト木の
雪かとばかり
香にかくれる
誰に語らん　よしもがな

夜明けて
眺むれば
身にしめど
匂すがたは
かゞやきて
床しきな

（二）

きまで消けき
誰がためにかは
昨日別れし
何たるすがたと
かつは忘れて
心をうつし
よしや、忘れて
誰に語らん　よしもがな

素然を
釣るらん
許ゞ妹に
思へさかに
月花に
見とさてか
見し影を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

片々

○孤女學院内の傳染病

府下王子村の孤女學院内に、去る月、一種の傳染病を發し、院兒十數名一時に枕に伏しぬ。看護素より一と方ならねば、助教たる佐々木君も、助母たる一老女も亦傳染し、東京第一醫院に入りたり。鈴木雅子、秋葉爲子の二看護婦會は、各々其看護婦を送りて助看せしめしに、此看護婦四名亦た傳染にて入院したり。院長大須賀君は、幸にして此に感染せられざれど、病餘此の多勞の爲めに一層衰弱せられ、院務を執らるゝと難ければ、立敎學校、明治女學校等の學生にて來り助けらるゝもありしに、中には又々感染せられしもあり。斯の如きと、凡そ一と月半にして、近日大率ね快治し、初めて魔風吹拂ひたるあとの如し。藤井米八郎氏、目今來助して大須賀君に代はらるれど、院内經濟非常の困難にて、外出の保養も出來がたき狀態なり。近く此狀態を知れるもの等は、力を合せて此一二月を支へたる由なるが、此上は廣く四方の義捐を要むるの外あらずとぞ聞く。

○博愛社の移轉

播摩の小橋君が博愛社は、此度び、大阪西成郡大仁村四十一番屋敷に移轉したり。これ必竟阿波松之介君居住の村内に移られたるにて、同君を初とし在坂有志者の合力多きの故に由らん。抑そも此社が、故勝之介君の精神を襲ぎて、經濟的慈善、殖產的孤貧兒敎育の主義を長久堅固に維持せらるゝと、歎服禁じがたきとなり。

○井上毅氏の子守教育法

文部大臣井上毅氏、「子守教育法」を細川大人に送るに付ての、文の中に云く、

そも田舍の或る處に、行はるゝ子守學校こそ、やかて幼稚園の始めともいふべき業にはあらずや、彼の西の國にて、幼稚園の起りし始めは、强ちに學者の發明のみにあらじ、遠く其因を尋ねなば、子守學校は、幼稚園を胎み成すべき卵巢にはあらざりしや。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

茲に人跡板橋霜ともいふべきは、明治十六年に、茨城縣の渡邊嘉重といへる人の著しゝ子守教育法といへる書なり。氏は子守女兒等が、惡き習に日を終へ、嬰兒に毒を流すのいたましき有樣を嘆きて、慈善者を募りて、子守學校を起しゝのみならず、其教の法の廣く世に行はるゝともかなとて此書をさへ著したり。

かくて、氏は此書を細川校長に贈られしと見ゆ。用意周密、忠實國に盡すの誠ゆかしけれ。

○支那の美術

岡倉覺三氏の支那の美術を探撿せんとして外行し、歸つて其所感を述られたるものゝ筆記に、支那の美術は寧ろ西洋のに近し、日本の美術は、思の外、支那に似ること少しと述べて、

例へば、洛陽の城の隅に立つて夕方、向ふから長い鞭を持つて羊だの山羊だの驅りながら返つて來る人の有樣を見たり、其城の瓦の落ちた所などを見ると、時々自分を忘れて、丸で羅馬に居るのではないか、羅馬城外に立つてカンパニアの方の野でも見て居る心持が丸で能く似て居ります。タイベルの河の流れるのも、亦洛水の流れるのも、同じやうに聞へる場合もある。

我美術は決して支那の美術の一分派丈のものではない、日本の美術の支那に受けるとは多かつたであろうけれども、其出色の點は之より多い。支那の影響は受けたにしても、夫を變化するの法により明らかに日本の特立を證することが出來るだらうと思ひます。支那に今日まで殘つて居るものや、支那のものゝ是まで日本に渡つて來たものに付て日本の發達した姿を見れば、決して心配するには及びますまい、即はち日本人は實に美術の特性を持つて居つて之を發揮した所があると云つても宜しからうと思ひます。

○本年女學界三の新動力

女子教育取調べの爲めに四年間米國に留學したる成瀬仁藏氏に、遂に大阪梅花女學校々長の職任を受けたり。嘗の文部次官、辻新次氏は、東京女學館の館長となり、女子教育振興何の爲めに大ひに力を盡さんとす。米國各州に遊説して人目を惹き、一の大問題となりて、現に諸方より囑視せられつゝある廣岡女史に、新たに一大女學校を起さんとて盡力中のよし聞ゆ。三つの新たなる動力加はりたれば、本年の女學界には、幾分新鮮なる現象を呈すべきか。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

海外女報

○女工の團隊組織、團隊は當時代の流行なり。然るに職業に從事せる婦人の中に此流行を見るの遲きことはいと歎わしきとなり。英國に於ては一千八百七十年、即ち明治四年の頃まで、一の女工團隊を見ることなかりき。現今に至りて漸く三四の組織有りと雖も、會員は總勢僅かに六万あるのみなり。佛國に於ては女工の情況更に甚しき由、巴里府に於ける計りも手職業をもつて生計を營む者實に七十万の數に達せりと雖も、辛ふじて口を糊するに止まり、賃仕事などをするものは十二時間より十四時間働きて僅に二十錢計りの賃銀を得るなりといふ。砂糖製造場マッチ製造場に於る女工に至ては、尚一層憫む可き樣を呈せり。一方に於ては四時夜を徹して勞働を要し、一方に於ては、マッチ製造に使用する白硫黄は恐る可き疾病の原因となり、勞働者の齒牙を損なひ、乳母の乳を蓄する故なり。佛國に家族の團欒を樂しめるもの尠く、人口は年々減少するは實に自然の結果ぞと言の外なし、下層社會に生れたる婦女の禍實に思ふ可きなり。

○愛見蘭に女あるじの酒造家、廿六ある由なり、

○倫頓の養育院に年々生るゝ赤子の數千に及べる由。

○伯林府に塵芥を利用する法、を聞くに悉く製造場に運搬し、之を干燥せしめ、粉碎し、焚物に利用する也と。衞生上のみより考ふるも甚だ嘉す可き新工夫なり。

○此頃英國女王ヴィクトリヤ陛下の御手元金より下賜せらるゝ給費生の競争試驗ありたり。最高點を得たる婦人はリヴァプールのミス、ミッチェル(十八歳)にして、四千七百五十名に打越へたる勝利なりと。

○シガコ大學總理、ハアパア氏始めて職に就くや、學生に女子の雜れるを甚だ掛念し、大に合學の不利を說きたり、然るに、今に至りて、氏のいふ處を聞くに、大學中最も安心にして、世話の焼けぬ部分は即ち婦人の在る處なりと。

○横濱婦人慈善會、のヴァンペテン夫人は此度世界禁酒會本部に書を寄せ、故ウェスト孃の紀念として、同港に一の禁酒飲食店を開らき、入港水夫の便を計らんと建議したり。外人中に飲酒、汚行の盛なること東洋の横濱に越ゆる處なしといひ、且居留地常住の外人千五百名に對して、時としては、一倍増たる入港水夫ありといへば、此設立計畫は至つて願は敷と也。

時報

◎學校、教育

●女子教育家の供給不足　一時吾邦の女子教育は頗る隆大に赴くの傾向ありしも種々の故障より世上何人となく女子教育を[illegible]たりなど吹聽し昨年の如きは尋常師範女子部を廢止したる地方もありし程なりしが去る[illegible]日を以て卒業[illegible]業したる女子高等師範學校の卒業者は已に悉皆各地方より聘用せられ尚ほ不足を感ぜし程なりと云ふ蓋し大に賀すべきことなり

●[illegible]女學校　[illegible]女[illegible]小[illegible]女子[illegible]學校は[illegible]漸々入學者多く學[illegible]も彬々[illegible]べきもの少しと云ふ

●華族女學校幼稚園の保姆　野口ゆか子氏と[illegible]子の二氏は[illegible]華族女學校幼稚園の保姆に任ぜられしが野口氏は女子高等師範學校[illegible]同校幼稚園保姆の首坐に在り又森島氏は[illegible]年間米國に在りて專ら保姆の業を修め一昨年歸朝せしなりと尚近日女子高等師範學校卒業生も任ぜらるゝ筈なりと云ふ

●神戸女學院　神戸市の同院にては[illegible]て建築せる理化學館及び音樂館は已に落成したるが爲め去る廿八日落成式を擧行したる由なり

●[illegible]看護婦學校　府下本[illegible]元町に創立せる同校は去る二十五日を以て同校試驗を執行したる由同校々主は[illegible]田タメ女史にして[illegible]は[illegible]吉田[illegible]安[illegible]同校學監[illegible]氏の外數名ありと云ふ因に記す本年[illegible]々[illegible]內に「[illegible]看護婦學校」とあるは「[illegible]看護婦學校」の誤植なり

●女教場に望を教かん　學校と家庭は[illegible]に至るまで日常普通の情態と背反せず力めて實地に應用す可き[illegible]成すべきなるに今日の小學校にては從來各家生活の[illegible]務と異り[illegible]は小學校にては[illegible]に行ひ始終高卓に依りて教授を受くるも之に反して家庭は十中の八九從來の習慣及び家屋の構造よりして日常起居するに適し[illegible]容又之に準ずる次第なれば多少其の間[illegible]庭する處あり折角の薰陶も或は完全の結果を見る能はざる可きは要するに此等も其中の欠點ならん特に女子に於ては一層此感あり男子と同しく椅子に據らしむるが如きは婦人天然の品性上聊か[illegible]なしとせず又衛生上に於ても[illegible]する方[illegible]るべし故に先づ試みに座敷教授の方法を師範學校附屬小學の女子部に實施し若し果して得る所あらば漸次其の方法を擴張して全道に及ぼさん云々とは某教育家の物語なりと札幌の「新北門」に出づ

●教員免許檢定試驗　尋常師範學校、尋常中學校、高等女學校教員免許檢定を出願したる者は其の學科に依り左記日限の二日前までに文部省へ出頭すべし但し出願學科の內歷史科に於て日本史又は外國史の一を缺きて出願したる者數學科に於て算術代數幾何の內其の一若くは二を缺きて出願したる者（從前既に一部の免許狀又は認定狀を有するものを除く）又尋常中學校高等女學校の教員志願にして該學校に設けなき學科即ち論理、教育等の檢定を出願したる者は檢定せられず

[illegible]學科（[illegible]）[illegible]科（四月十六日）（數學科（幾何））（同十七日）數學科、[illegible]科（同十八日）農業科、國語科（同十九日）教育科、理科、商業科（同二十日）體操科（兵式體操）科、倫理科（同二十一日）數學科（三角法）（同二十二日）漢文科、物理科（同二十三日）（數學科（代數））（同二十四日）體操科（[illegible]）（同二十五日）[illegible]科（五月三日）歷史科（同四日）（數學科（解析幾何、分積分））（同[illegible]日）音樂科（同五日）化學科、圖畫（同七日）地理科（同八日）習字科（同十一日）博物科（生理）（同十四日）（博物科（植物））（同十六日）（博物科（動物））（同十七日）博物科（鑛物）（同十九日）

●工女の教育　教育時論にて曰く貧民女兒の教育は分れて三期となる第一期は、生れてより五六歳に至る迄の間にして、父兄が衣食の奔走に暇なきを以て、殆んど目して教育と稱すべき程のものはなし第二期は、七八歳より十一二に至る間にして、是を子守時代とも云ふべし、第三期は、十三四歳より廿歳乃至廿四五に至る迄の間にして、[illegible]工女たり。近時漸く子守の教育せざるべからざるを稱ふるもの多くなり行きて、子守學校と稱するもの、處々に組織せらるゝは、誠に賀ふべき次第なれども、工女教育を稱ふるものは尚少し、工女の無教育なるが爲に、[illegible]に堪へざるの行ありて、[illegible]德心に缺乏し、巨額の貨金を徒費するは、吾人の[illegible]る所、[illegible]ものが[illegible]日人間の[illegible]たることを[illegible]りとせば、豈寒心すべきの極にあらずや、工女教育の策亦大に研究せざるべからず

◎美談

●孝子孝女の美談　昨年以來各地方の新聞紙上頻に孝子孝女の美談を載す喜ばしき限りにこそ

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

●佐渡の孝女　佐渡雜太郡相川町大字濁川町卅三番戸片岡府吉(慶應元年四月生)と云ふは本年五十五歲の老母と妻ヤヲ(二十八年)長女ミ子(明治二十年八月生)次女コウ(二十三年二月生)と五人家內にて其身は鑛山稼ぎを爲し妻は石炭拗ぎを爲して漸く其日を送る有樣なりしが如何なる故にや昨年九月五日妻ヤヲは二人の幼兒を殘し何處へか逃走し加ふるに府吉は同年十月中より左腹部へ腫物を生じ種々醫療を盡せども漸次に重り行くのみにて起居も自由ならず家計益々困難を告ぐるにぞ老母は已むを得ず石炭又は煉瓦などの運搬人夫に傭はれ晝は不在勝ちなるに長女のミ子は跡に殘りて妹の看護を始め父の藥餌より大小便の取扱等に至るまで一人にて手厚く看病し夜間も心よく休みし事なく殊に本年二月六日は舊曆正月元日の事とて近隣の子供は孰れも晴れの衣裳を着け毬やら羽子やら種々の遊びに耽り居るゆゑ老母も二人の子供に衣服を着換させて遊びに遣りしにミ子は一寸門口にまで立出でたるのみにて戻り來り父の傍を暫時も離れず其の月日を一日の如く看護し居たれど其甲斐なく府吉は二月十六日歸らぬ旅路を辿りたればミ子の愁傷一方ならず其後親類なる二見港の片岡彦七氏次女のコウを引取りて養育し居れどもミ子は老母と跡に留まりて父に事ふるにも彌增して孤揆ないたはり明け暮れ父の菩提を弔ひ居るさまの傷ましさに四隣皆雙の袂を沾ほすとぞ越佐新聞に見ゆ

●篤行なる女生　山形縣米澤市直峯町の高森宮吉の長女はる子といふは孝順友愛の廉を以て此程左の旌表及書籍を賞與されしと

裁縫專修生　高森はる　明治十一年三月生

右者資性溫順品行方正信を朋友に盡し愛を幼弟に施し克く家事を助け篤く學問に志し茲に十年の久しき間始終一日の如く諄々として勉學するは奇特に付頭書の物品賞與候事

明治廿七年三月　　興讓尋常高等小學校長　近新次郎

●徳島の節婦　徳島縣名西郡入田村九十二番屋敷に住む西岡横藏(七十一)の妻ハルといへる(五十二)は今より二十數年の昔し此家に嫁ぎ來りしがハルは性質貞實にして能く家業の農事を勵み手許は貧しけれども衣食に差支なければ少しも苦とする氣色なく人に對して叮嚀親切なれば常に隣人の稱賛を受けぬ、今を去る七年前夫横藏は不慮の事にて怪我したるより終には中風症となりて身幹思ふ儘にならざれば起居の不自由言はん方なく殆んど平臥の有樣にて月日を送れり左らぬだに不景氣の世を渡る貧世帶忽ち糊口に苦しむは理の免れざるところ、左ればハルは是れより農業の隙を考へて自ら豆腐蒟蒻を製し之れを村內に鬻けり其の最も繁忙なる間は民休業の日にあれば晝は山に行きて薪を採り夜は豆腐の製造に眠らず明くれば直ちに擔いで戸々に賣り時に或は徳島なる綿織商の取次を爲し十數貫の綿を擔ふて朝夕往復に忙しく其の最も雜事輻湊の時は數日間脚半をとかずといへり斯のごとく粉骨碎身して得る處の金は幾許ぞ實に僅少數斯のごとく終年未だ一日の安を得ずして身を勞し心を苦しめども一たびも夫に逆ふことなく夫は永き病に氣も短く身も疲れたれば無理小言を洩らす事あれどもハルは百方慰めて怠らず苦しき中にも僅かの錢を以て夫の好める酒を買ふて進め其の喜べる樣を見て無上の樂とはなせり、長男延五郎漸やく獨立して業を營むに至りければ稍心に安んじて嫁のシムを娶りしに間もなく延太郎徵兵の適齡となりて入營せざるべからざる事となれり此の時徵兵の免除を申立てなば無□開届らるべきに醫師に出す診察料さへなき貧苦の手許なれば願出でん由もなく其期を過して現役に赴きしが其後昨年九月徵兵參事員(岡田熊次郎氏等)の人々之を聞き盡力せられしかば後れながら免除を願出でしも如何せん既に其期過ぎたれば終に聞届けられざりし、杖柱と賴む可き延太郎が家に在らずなりたれば殘るは病める夫、纎弱き嫁、弱身の二男喜六のみ一家四人は一にハルの手に養はるゝ事となりぬハルが一身ますます苦勞を重ぬるぞ憐れなり嫁のシムは又父母に仕へて順なれども是れ逆女の身の如何とも詮なし、斯かる暮しの中にも特に感ずべきは病身の喜六を尋常小學校に通はせ居れる事是れなり人々之れを止むれども子を産むからは片輪にはしませんと糊口の料を割きても子の教育を疎かにせざる心掛け殊勝とも奇特とも賞して餘りあるを知るなりと徳島日々新聞に見ゆ。

●泥中の蓮華　札幌區に於て元貸座敷營業をなせる鈴木松所なるものは檻内數十の阿嬌を養ふて日夜内外の遊冶郎に黄金の花を咲かせ幾歳月を送りける程に一人の娘京子は四圍の淫風に吹き染れずに早や三五の春をぞ迎へけるが父がなせる業の心に愧てく朝な夕なに諫めつ泣つしけるに慾には目のなき父松所も子の愛には盛り潰され京子の意見に打ち任せて店をば早速人手に渡して出京したるは去る廿二年の春なりき。松所は夫より築地一丁目に住居なし娘京子をば東京府高等女學校に通學させけるに京子は勉強おさおさ怠りなかりしかば三ヶ年程經て成績もよく卒業の譽を得たれば父子相喜び今後の身の振り方に先つ教員こそよけれと京子は口あるを幸ひ淺草猿屋町の育英學校に傭はれ日々勤務に怠りなく今は同係とては生徒の氣受もよく天晴れ女訓導となり濟しけるとなん世には良家に生れながら娼妓の賤業を望む者さへある中に身を泥中に生ひ立ちて此志あるとは正に是れ泥中の白蓮華殊勝とこそは云ふべけれ(北海自由)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎片々

●女教員の爲めに祝宴を開く　兵庫縣武庫郡御影の人にして督部松本氏の妹より子此頃東京女子師範學校を卒業せられ其地の高等女學校の教員となりし爲め同地の有志者は御影地方より女教員を出すは此れが始めなればとて同女の爲め祝宴を開く筈なりと之れ啻に同女の爲めに賀すべきのみならず同地方の爲めに賀すべきなり。

●俠女西村よの子　同女史の逸事傳記は去る二十八日より新朝野新聞紙上に出づ婦人の一讀を價するものなり

●府下死亡月別　東京府にて昨廿六年中十五區九郡及び伊豆七島小笠原島（内三多摩郡は四月中より編入す）死亡の月別を取調べし忠左の如し

一月	男千五百六十七人　女千三百六十七人	二月	男千二百七十八人　女千二百〇一人
三月	男千三百九十五人　女千三百三十六人	四月	男千五百六十九人　女千四百二十八人
五月	男千四百六十四人　女千三百五十人	六月	男千五百五十人　女千四百〇一人
七月	男二千〇〇五人　女千九百〇〇五人	八月	男二千〇五十二人　女千八百七十三人
九月	男千八百八十九人　女千七百二十一人	十月	男千五百九十人　女千五百十五人
十一月	男千四百〇〇人　女千二百五十八人	十二月	男千四百九十三人　女千四百十三人
總計	男一万九千二百五十二人　女一万七千八百十六人		

右の統計を以て前年前々年に比すれば年々死亡者の數を減じたるものゝ如し

●小兒共進會の一等賞　岐阜市加納屋町の伊藤豐吉と云ふは今を去る十六年前一人の老母を殘して無斷に家出したるまゝ一昨年震災の當時迄更に消息無かりしが豐吉は目下妻を携へて米國オハイオ州クリーブランド市に住み富有に暮し居る趣にて去る二月一日同市に於て開きたる小兒博覽會に其二女子メーメーたびベッシーを出陳し美麗なる日本服を着飾らしめしに長女メーメーの方は第一等の優美なる少女なりとして同會の最高等賞品を得たる由東京日々新聞に見ゆ

●親婚園の設置　北海道後志國岩内の有志者は去る九日を以て御舉行相成りたる大婚二十五年御祝典の紀念として岩内市外に面積十万坪の地をトし一大公園を設置して親婚園と名け消雪の時を待つて工事に着手する筈の由

通信

會津通信　　通信員報道

●若松高等小學　本年の卒業生は總計七十一名にして女子は二十五名あり此中より本年女子師範學校に入學するもの八名あり他は職業學校女學校等に入るあり裁縫塾に入るあり家政を助くるありといふ去月二十四日は其卒業式にて同日は校内に小學生徒并に幼稚園生徒の製作品等の展覽會を開き衆庶の縱覽を許したり

●若松女學校　昨年八月若松名りん子等の發起により假に開校したる同校は都合ありて若松婦人會と協議の上其關係を絶ち此度いよ〳〵基督教主義として獨立するに至れり而して其授業は凡て小學校に準ずることゝなりたり

●[illegible]　[illegible]學校數[illegible]の増殖したるため多くの從事數は其家と軒をならべ其際いふべからず[illegible]年來[illegible]增加すること甚しく殆ど公[illegible]の秘密にして而かも之[illegible]を加ふるもの[illegible]の[illegible]行いよ〳〵甚しきを加へたり之が爲め[illegible]の[illegible]いよ〳〵迫り昨年十一月[illegible]の際にも當地の婦人會より百余名の[illegible]名を以て[illegible]ありしも[illegible]會は之を[illegible]一年前まで[illegible]議員中[illegible]者も多數ありしに[illegible]は殆ど之なき有様にて殺も一時此も一時未[illegible]なき人の爲す所實に嘆くに堪へざるなり

◎叙任及辭令

兼任女子高等師範學校教授叙高等官七等七級俸加賜（三月廿七日）　第一高等中學校教授從七位　小中村義象

第七[illegible]尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員檢定委員を命す　女子高等師範學校教授　中川謙二郎

第七回尋常師範學校高等女學校教員檢定委員を命す（三月廿四日）　令　福田米子

免本官專任女子高等師範學校教授六級俸下賜（三月廿八日）　高等師範學校附屬音樂學校教授　女子高等師範學校教授　神津仙三郎

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女子高等師範學校教授ドクトル 飯盛挺造先生
女子高等師範學校教諭 寺尾捨次郎先生編纂

中等教育 物理提綱

本書ハ中等教育上ニ適スル物理學教科書ニシテ特ニ高等女學校並ニ尋常師範學校女子部ニ應用スルヲ目的トシテ編纂セル一種出色ノ良書ナリ、各章各條ノ下多ク日常實際ノ的例ヲ掲ケ、文章ハ平易流暢ニシテ極メテ了解ニ易ク、圖書ハ富饒精美ニシテ能ク說明ヲ助クル等未タ佗ノ教科書ニ見サル所ノ卓絶ナル長所トス、此書一タヒ出テ、困難ナル物理學科モ樂ンテ講習セラル、ニ至ルヤ疑ナシ

印刷鮮明、製本堅牢、
挿圖二百二十餘、
紙數三百餘頁全一冊

正價 金七拾錢

發兌書林

東京市日本橋區馬喰町二丁目 島村利助
同日本橋通三丁目 丸善書店
同本郷區春木町 島利支店
東京市本郷區湯島切通坂町 南江堂
大坂市東區備後町四丁目 小谷卯三郎
同北久太郎町四丁目 柳原喜兵衞

山陽女學校學生募集 在岡山東山

今般校則ヲ改メ新ニ文科ヲ置キ甲部ハ和漢學乙部ハ英文學ヲ專攻セシム乙部ハ米國ノ**學士**兩名甲部ハ舊岡山藩ノ**儒官**及皇典講究所ノ老**講師**等ノ擔當ナリ右ノ外豫備普通手藝科ヘモ各入學ヲ許ス本校ハ操山ノ麓旭水ノ東ナル閑境ニ在リテ靜脩ト健康ニ宜シク學費ハ地方ノ事ナレハ極メテ廉ナリ志願ノ姉妹ハ速ニ申込アレ規則書ハ郵券貳錢ヲ要ス

弊社儀今般都合ニ依リ大坂府下西成郡鷺洲村大字大仁四拾壹番屋敷へ移轉仕候也

明治廿七年三月十二日

播州 **博愛社**

本校四月學年終結に付各級へ新入を許す規則所望の人は郵券二錢封入御申越あれ

明治廿七年四月

東京市麴町區下六番町六番地 **明治女學校**

須永金三郎君著

婦女手藝法

全一冊

正價金十五錢
郵稅金六錢

女子手藝の練習法を說きたる書世間其類に乏しからず然れども其多くは皆實用に適せざる飜譯物にして其完全なるに至つては世間多く其類を見ず此書は完全なる女子手藝の練習を與へん爲め實用を旨として編纂したるものにして全編を八に分ち和洋服裁縫。毛糸編物。レース。和洋料理。養蠶。紡績。織物。染物。料理。ハンカチーフ。縁縫。押繪。造花。縫取。切箝。紋切等の有益なる諸藝より茶の湯。香。投扇興。貝合。花骨牌。トランプ使用法等の諸遊藝に至るまで悉皆網羅し最後に至りて附錄として和洋の女禮式を載せたれば手藝練習に志ある女子の爲には坐右に缺く可からざるの珍書なり

賣捌所 東京神田表神保町 **女學雜誌社書店**

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

新刊書籍發賣廣告

警醒社書店
福音社

平野濱子著

日曜學校用一ケ年卒業 聖書の眞理摘要

四月ヨリ六月マデ三ケ月分
定價金八錢
郵税二錢

オーチス、ケリー氏編著

祈禱會巡回記

定價金拾錢
郵税貳錢

祈禱會ハ教會ノ生命ナレモ司導者宜シキヲ失スル時ハ其生命ヲ殺クモノナリ昔時イスラエル人ノ埃及ヲ脱シテ迦南ノ地ニ向フヤ摩西ナクンバ目的ヲ達スルヿ能ハズ又彼ノエリコノ堅城ヲ陷ルモヨシユアノ司導其宜シキヲ得シモノナラン凡ソ祈禱會ヲシテ有益ナラシメント欲セバ聖靈ノ祐助ヲ蒙レル司導者其人ヲ得サレバ能ク其効ヲ奏スルヿ能ハサルナリ本著ハ久シク我國ニ在留シ熱心家ノ聞アル宣教師ケレー氏ノ實驗録ニ本邦數名ノ牧師ガ經驗ヲ加ヘ增補シタル者ニシテ今ヤ我邦ニ於テ如何ニ祈禱會ヲ有益ニ隆盛ナラシムルヤノ問題起ルノ時ニ當リテ本書ハ之ガ答辯者或ハ指導者トス可キ者ト信ズ牧師傳道師ハ勿論一般ノ信者一讀セバ大ニ裨益アル好著書ナリ

星野光多君編

聖語一覽

定價 上製 四十錢 並製 三十錢
郵税 六錢

◎前編○緒言基督一生の歲月○基督の畧傳○基督の生涯一覽表○基督の人物並に教説に關する論評一斑○甲、總論○乙、基督を信せさる者並に異説家の論評一斑◎本編○聖語一覽○是本書の本體にして聖書中より基督の語一切を拔萃し來り、更に之をその順序に從ふて列記し讀者をして一目瞭然たらしむるものなり

松村介石君著

信仰之道

定價金八錢
郵税二錢

未だ基督教を知らさるものに向て漫りに深遠奥妙の教理を説く已に其道を得たる者に非らず傳道の秘訣は基督が「サマリヤ」の婦を教ふるに肉躰の渴を止むる水よりして遂に永遠の生命の水あるとを示し給ひしが如く最も見易き日常の事物より説き起し遂に深遠幽深なる眞理を説かさる可らず本書は松村介石先生の新著にして最も世俗的に宗教の眞理を説明したるものなり嘗て先生が物されし「烏渡一言」に類似したる小册子なりと雖とも着眼自から前著に異り能く前者の言ひ盡さゝりし所を言ひ讀者をして粗布を以て痒を拭ふの思あらしめん「烏渡一言」が如何に傳道を助け世を益したるかを知る者は必ず此書を一讀せさる可らず

原田助横井時雄兩君著

日本の道德と基督

定價金八錢
郵税二錢

日本ニ於ケル 大尉チェンス氏

定價金廿錢
郵税四錢

目次○第一、教育上にかけるチェンス氏○第二、チェンス氏宗教的の感化及迫害○第三、チェンス氏の性情及逸事○附錄○九州文學記者に寄す、チェー、デー、デビス○余が改信の始末、小崎弘道○チェンス先生に就ての回想、森田久万人○チェンス先生を追想して、不破唯次郎○チェンス先生を追懷す、下村孝太郎○チェンス師に就ての所感、海老名弾正○十五年前の回想、藏原惟郭○歸鄉後のチェンス先生、浮田和民○追憶、宮川經輝○熊本洋學校の追想、市原盛宏○大尉チェンス氏、横井時雄○洋學校

發賣 東京京橋區出雲町一番地 警醒社書店
賣捌 神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

博士スタウカル原著

四人の人

定價廿錢
郵稅四錢

◉四人の人　世の見る人、朋友の見る人、己れの見る人、神の見る人之を四人の人となす。其の長短優劣を比較して殆んど餘蘊あるとなし。

◉誘惑　誘惑は靑年通有の病なり。スタウカル氏利刀を振ふて、詳かに其の病原を解剖分拆し、豫防の方法を說くと、甚だ諄々たり。

◉良心　良心の作用を分ちて六となし、更に善き良心を解して、是れ開發せる良心なり、柔和なる良心なり、純潔なる良心なりと說く。

◉今日の宗敎　軟弱、輕薄、卑劣、固陋是れ宗敎家にありては最も惡むべきものにして、然も間々之に陷るとを免かれず。スタウカル氏の此辨ある寔に偶然にあらず。

◉基督と人慾　慾望の多少は文野の標準なり。基督は靈魂の深廣なる慾望と密接の關係を有す。基督は人の智慧、義、聖、贖なり。是れ此編の主意。

◉公共心　國事の辱め、救世の辱めに盡力せんとするものは、基督の命令と約束を奉じ、その愛心とインスピレーションに勵まされざるべからざるを說く。

◉宗敎の證據　宗敎の證據は、知識にあらずして活ける確信なり。此篇即ちサマリヤの婦人の例を擧げて而白く之を說明せり。

◉靑年と老年　宗敎的の需用は、靑年と老年と自ら相等しからず。基督の福音は、此の異なれる需用を悉く滿足せしむるものなり。

右は本書載する所、八篇の說敎の大意なり。其の說の實際的にして、其の調子の信仰的なる、能く人の病所に中り、能く慰藉の福音を傳ふ。是れ蓋しスタウカル氏經驗の產物なればなり。

發行所　麴町區四番町四番地　福音新報社
賣捌所　神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

女子高等師範學校長　細川潤次郎先生序文
華族女學校長
女子高等師範校助敎諭
共立女子職業學校講師　寒澤振作君著

家政の栞

全一冊
洋裝大判二百頁正價金二十錢郵稅金六錢

本書は尤も多數なる中等社會の婦人を標準として平易に家政上の事柄を述べたるものにて其目次は總論に於て主婦の務めの貴重なる所以を論じ二章以下時間の儉約、物品の整頓、品物の時價、貯蓄、經費、手藝、物品の保存、雇人の待遇、室內の取締、家屋の構造、廢物利用等全篇十二章に分ち詳密に辨せし者なり良妻淑女一閱して家政上の智識を得られんとを

賣捌所　東京神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

文學界

第十五號　三月三十日發兌

○薄命記　禿木
○機聲燈影圖　寧齋
○流水日記　孤蝶
○夏山遊　柳村
○魂祭　藤村
○吏登發句集

其他時文○斷橋○伽羅綺姿○小說有馬筆○柴車○新刊○塵影

定價一冊六錢○六冊卅三錢○十二冊六錢○市外郵稅共一冊六錢五厘○六冊三十六
郵○十二冊六十六錢

發賣所　神田表神保町六番地　女學雜誌社書店

評論

三月二十五日發兌

第二十三號目次

●春遊　隱花生
●宗教上の東方問題
●鐵血翁と老西鄉
●頌德條約改正論
●感激献身
●客氣、義俠、平凡大王
●社會學史上スペンサーの地位　布川靜淵
●岐阜縣治水策　齋藤青作
○舊藩林制○藩林制度○民林制度○山役人○山林保護○廢藩后の山林荒敗○諸工業の隆盛○田畑宅地殊に煙畑の增加○草山增加○生計の困難　郡内良木の缺乏
●大勢一覽
議院大人
大勢は濶步直行す
●破れ家のつゞくり話を讀む　玉堂
●深見笠を讀む　磐松子
●濠洲クインスランド　山下好民
●文學斷片を讀む　撫象子
●伊太利の現狀　末摘花
●聯立内閣未可成論
●内大臣德大寺卿を懷ふ　王臣某
●花を待つのおもひ　稚翁

發賣所　女學雜誌社書店

女學雜誌定價表

冊數	定價前金	市外定價郵稅共
一冊	金六錢	金六錢五厘
十冊	金五十八錢	金六十三錢
廿六冊(半ヶ年分)	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二冊(一ヶ年分)	金二圓六十錢	金二圓八十六錢

一本誌購讀者は代價郵稅共凡て前金御拂込之事前金御拂込無之御注文有之候共一切送附不仕候

一本誌代價郵稅共郵便小爲替にて拂渡局を必らす

一ッ橋郵便爲替取扱所へ宛御振込の事。

請取人は神田表神保町六番地女學雜誌社と御記入の事。郵便切手代用は一割增(五厘切手に限る)にて申受け候。

一本誌御注文の節は住所姓名を明瞭に記載し號數は何號より何冊分と詳細に御書添への事。

東京市神田區表神保町六番地

發賣所　女學雜誌社書店

明治廿六年四月廿五日內務省許可
明治廿七年四月六日印刷
明治廿七年四月七日發行

東京市麴町區下六番町六番地
發行兼編輯者　巖本善治
仝　牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地
印刷者　根岸高光
東京北豐島郡王子村下十條八百五十一番地
發行所　女學雜誌社
仝　牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場(電話十九番)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY